

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]

アンケート回収率

生徒 95.5% 保護者 40.5% 教員 100%

○生徒

昨年度に比べて、肯定率が4ポイント以上の増減があった項目

「学校に行くのが楽しい」81.1%→87.3 (+6.2%)

「授業は、わかりやすく楽しい」79.7%→83.9% (+7.6%)

「教え方を工夫している先生が多い」88.1%→92.9% (+4.8%)

「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」77.4%→84.0% (+6.6%)

「学校生活についての先生の指導は納得できる」83.5%→88.7% (+5.2%)

「学校行事は、みんなが楽しく参加できるよう工夫されている」87.4%→91.5% (+4.1%)

- ・18項目のうち、6項目で肯定的回答が大きく上昇した。
- ・特に「授業は、わかりやすく楽しい」が最も上昇している。理由としては1人1台端末を活用し、個別最適な指導が実現していることが考えられる。
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が6.6%上昇している。令和4年度と比較すると18.1%の上昇で、新学習指導要領の実施、PBLの導入やICT機器の効果的な活用のための教材開発等が考えられる。
- ・「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」が0.8%、「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」が0.2%減少している。より一層、教員が生徒に寄り添い、教員が身近で信頼できる学校づくりに努める必要がある。

○保護者

肯定的回答が90%以上であった項目

「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」93.2%→93.3% (+0.1%)

「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.9%→90.1% (+1.1%)

「先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている」93.0%→93.3% (+0.3)

「学校の生徒指導の方針に、共感できる」89.5%→91.2% (+1.7%)

「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」97.6%→93.3% (-4.4%)

「文化祭や体育祭・宿泊行事などの学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」90.5%→93.4% (+2.9%)

- ・13項目のうち、6項目で肯定的回答が90%以上あった。
- ・「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」が93.2%については、「溶接甲子園」で最優秀賞、各種技能検定、「第1種電気工事士試験」への取組など、各種コンクールや資格試験に取り組んでいることが考えられる。

- ・「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が 93.3%については、昨年度より 4.3%下降している。今後、進路指導課と各学年が連携を図り、保護者進路説明会やキャリア教育の充実を行う。
- ・「この学校の部活動は、活発である」が 57.8%で 9.4%上昇している。在籍生徒は少ないが、部活動に取り組んでいる生徒が満足していると考えられる。

○教員

肯定的回答が 90%以上であった項目

- 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 84.0%→90.9% (+6.9)
- 「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」 88.0%→95.4% (+7.4%)
- 「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」 86.0%→93.2% (+7.2%)
- 「生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 86.0%→93.1% (+7.1%)
- 「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。」 74.0%→90.9% (+16.9%)
- 「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」88.0%→93.2% (+5.2%)
- 「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」 94.0%→100% (+6.0%)
- 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」 94.0%→97.7% (+3.7%)
- ・ 29 項目のうち、8 項目で肯定的回答が 90%以上あった。
- ・「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」が 95.4%については、放課後や長期休業中に目的意識のある生徒を中心に各種コンクール・資格・検定試験指導を行っていることが考えられる。
- ・「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」が 81.8%については、昨年度より 12.2%と大きく下降している。各教科で電子黒板や 1 人 1 台端末の効果的な活用が進み、学習効果の検証の時期にあると考えられる。
- ・「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が 97.7%については、実施年数を積み重ねることで、他教科での ICT 機器の活用方法が参考となり、教員ひとり一人の授業力向上の意識が高まっていると考えられる。
- ・一方で「学校として、部活動の活性化について工夫している」25.0%と低い数値となっているが、部活動以外に、資格取得の補習や、コンクール出場の練習（今年度は「溶接甲子園」で全国優勝など）などに積極的に取り組んでいることを伝えていく。
- ・「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」47.7%、「この学校では、清掃がいきとどいている」47.7%と 50%を下回っているため、今後の改善課題として教職員の共通認識のもと取り組む必要がある。